

事務事業チェックシート

事務事業No 573 事業名 濟州島マラソン派遣事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	4	スポーツの振興
取組方針	2	スポーツを通じた地域振興

事業種別	継続		
事業期間	H16 ~		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長・Tel	スポーツ振興課	小川 直寛	435-1364
関連課	国際交流課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	スポーツ振興費		
	大・中事業	スポーツ振興事業 濟州島マラソン派遣事業		

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にする)ための事業か 和歌山市と姉妹都市である濟州市との友好親善を図ることを目的に、濟州島マラソンへ参加するため、前年度の和歌浦ベイマラソンの上位入賞者の中から数名を、濟州市に派遣します。		全体事業概要 和歌山市と友好都市である濟州市で開催される濟州島マラソンに、和歌浦ベイマラソン上位入賞者を派遣するにあたり、参加費用の軽減を図るため、費用の一部を補助金として交付しています。			
	事業内容	平成27年度 濟州島マラソンへ選手団を派遣(4名)	平成28年度 濟州島マラソンへ選手団を派遣(4名)	平成29年度 濟州島マラソンへ選手団を派遣(4名)	平成30年度 濟州島マラソンへ選手団を派遣(4名)	平成31年度 濟州島マラソンへ選手団を派遣(4名)

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	417	313	415	376	462	447	447	447	447	
伸び率(%)	-	-	▲0.5%	20.1%	11.3%	18.9%	▲3.2%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	749	864	864	968	968	963	1,269	1,269	
	正規職員以外									
	小計	749	864	864	968	968	963	1,269	1,269	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源(税等)	417	313	415	376	462	447	447	447	447	
所要人数(人)	正規職員	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.12	0.16	0.16	
	正規職員以外									
主な予算内訳	濟州島マラソン派遣補助金 309千円、 外国出張旅費 103千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
成果指標	濟州島マラソンへの派遣者数	人	目標値	4	4	4	4
			実績値	4	4	4	4
			達成度(%)	100.0%	100.0%	100.0%	
活動指標			目標値				
			実績値				
			達成度(%)				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>毎年、前年に開催された和歌浦バイマラソンwithジャズにおいて、上位入賞した和歌山市在住又は、通勤、通学をする選手の中から若干名を、6月頃に開催する済州島マラソンに派遣する。</p> <p>派遣された選手は入賞するなど、優秀な成績を残すことが非常に多い。この事業は、姉妹都市である済州市と友好・親善を図ることを目的としており、貢献度は高いと思われる。</p> <p>ただ、さらなる効果は期待できないが、事業を継続することで、済州市との良好な関係を保つことができる。</p>
見直し・改善内容	<p>コスト面については、引き続き削減に向けた検討をしていく。</p>